

令和4年度 公益財団法人きょうと京北ふるさと公社事業報告書
令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日
(第10期)

I 総括

発足以来21年目と成り、公益法人としても10期を終える事と成りました令和4年度は、長引くコロナ禍での感染拡大への不安や、ロシアのウクライナ侵攻に伴う世界経済への影響、急激な円安による原油価格や物価の高騰、光熱費の値上がりなど、先行き不透明な社会情勢の下での厳しい公社運営と成りましたが、幸いにもコロナ禍による道の駅ウッディー京北や、宇津峡公園の営業規制を受ける事無く、3年振りに年間を通じて全ての事業が進められた事は、収益による経営基盤を確保し、地域のための公社事業を展開する上では喜ばしい事でありました。

元気な町づくり事業部では、農を中心とした事業展開を柱とする公益財団法人として、高齢化や後継者不足に伴う、耕作放棄や農地流動化などの課題に対し、地域の農地や農業に関する相談窓口としての公社の役割を果たすため、農地の貸借や売買、農地の耕作に関する相談対応を積極的に行う事により、荒廃農地の増加を未然に防ぎ、地域環境や農地保全に繋がるよう取り組む事ができました。

京北地域の基幹産業である農業を守り、農家が将来的にも安心して農産物生産に携われるよう、昨年度より収益事業として事業実施している「農産物の生産販売と農業施設運営に関する事業」に於いては、「地産地消」「食育」と併せ、ブランド米としてのPRを目的に従来取り組んで来ている、年に一度の市内全域の京都市立小中学校米飯給食での「京都京北米」の供給のほか、年度途中からJA京都より米の地域内外への販売を引継いだ事が販路拡大にもつながり、精米施設「米工房」の稼働率と米の販売実績を伸ばす事ができました。

本事業部では、ほかにも従来同様田舎の便利屋事業として、地域からの農作業等に伴う作業受託、あるいは府や市などの行政機関や団体・法人等との年間契約による受託業務、地域活性化事業としては、主に開設16年目と成る市民農園の運営や、空き家紹介による定住促進などの取り組みを行って参りましたが、市民農園の新規利用者や、空き家活用による定住者実績に於いて、当年度は例年以上の成果を残す事ができました。

地域交通事業部では、当年度から2年間更新された「公共交通空白地有償運送事業者」として、スクールバスの運行と共に、ふるさとバスの安全運行を行う事が出来、「美山・京北バス旅ルート」による「バスたびきっぷ」や、「もうひとつの京都周遊パス」の販売も大変好評いただいた取り組みと成った事で、乗車人員は昨年及びませんでしたが、収入実績は昨年を上回る事ができました。

また、当年度は京都市の施設であり指定管理者制度の下で管理運営を行っている、「道の駅ウッディー京北」並びに「京都市宇津峡公園」の、4年間の管理運営期間の最終年度でもあったため、令和5年度4月から引き続き当公社が両施設の指定管理者として指名いただけるよう、申請業務に取り組んだ年でもありました。

競合他社がある中で、結果として次期4年間についても両施設の指定管理者指名をいただいた事は、収益事業として一定の収益を確保できた事にもつながるため、今後4年間の公社経営に於いて大きな成果と成りました。

当年度の、両指定管理施設の管理運営については、年間を通して事業を順調に進められた一年と成り、特にウッディー京北については、1億7千万円を超える過去最高の売上実績を残す事ができた事などから、両施設による収益確保が、公社全体の事業収支に良好な結果をもたらす要因と成りました。

一方で、収益事業である貸館事業に於いては、上弓削町越木の『田舎ぐらし体験施設』では、長期契約により安定した使用料収益を確保する事ができているものの、公社施設での葬祭利用は減少しており、当年度は前年対比5件減の12件の利用に留まりました。

当年度の予算執行は大変厳しい計画でスタートいたしました。このような一年間の事業展開と、役職員が一丸と成って事業に取り組んだ結果として、年度末決算に於ける事業収支を良好に締めくくる事ができました。

II 理事会・評議員会の開催

《 理事会 》

第1回理事会 令和4年5月13日(金)

- ① 令和3年度 事業報告書の承認の件
- ② 令和3年度 会計決算報告書の承認の件
- ③ 期末残高確定に伴う 令和4年度 補正予算[第1号](案)の承認の件
- ④ 令和4年度 常勤・非常勤の理事長等の報酬についての件
- ⑤ 令和4年度 定時評議員会開催の件

第2回理事会 令和4年10月20日(木)

- ① 追加事業の取組等に伴う補正予算[第2号](案)の承認の件

第3回理事会 令和5年3月17日(金)

- ① 令和5年度 事業計画(案)の承認の件
- ② 令和5年度 収支予算(案)の承認の件
- ③ 令和5年度 農業関連施設に関する投資計画(案)の承認の件
- ④ 令和4年度 第3回評議員会開催の件

《 評議員会 》

第1回評議員会（書面議決） 令和4年4月26日(火)

- ① 辞任に伴う評議員の補欠選任についての件

第2回評議員会 令和4年5月27日(金)

- ① 令和3年度 事業報告書の承認の件
- ② 令和3年度 会計決算報告書の承認の件
- ③ 期末残高確定に伴う 令和4年度 補正予算[第1号](案)の承認の件

第3回評議員会 令和5年3月28日(火)

- ① 令和5年度 事業計画(案)の承認の件
- ② 令和5年度 収支予算(案)の承認の件
- ③ 令和5年度 農業関連施設に関する投資計画(案)の承認の件
- ④ 令和5年度 役員報酬総額(案)の承認の件
- ⑤ 任期満了による新役員(理事・監事)候補者選出に伴う選考委員の選出の件

Ⅲ 令和4年度 主要事業の内容

1. 管理部門

人口減少、少子高齢化、担い手や後継者不足など、京北地域の厳しい現状を捉え、将来に亘り地域からの期待や要望に応えられ、信頼される健全な公社作りに努めました。

【施設整備】

老朽化と耐震対策に伴い、長期課題となっている現公社施設からの移転を、年度内に行う事はできませんでしたが、引き続き事業所として安全で利便性よく、将来的な公社の事業を効率的に行える場所への移転ができるよう、進めて参りました。

【組織強化】

京都市外郭団体からの自律化団体として2年目と成り、将来に亘って地域の負託に応えるための、強靱な経営基盤による持続可能な組織となるよう各事業に取り組みました。

所属長会議等の内容を内部会議等で周知し、全職員が同じ意識を持ちコンプライアンスを遵守しながら、それぞれの職務に精励いたしました。

なお、公社事業の紹介により、地域の皆さまに事業利用を促すため機関紙である「ふるさと公社だより」は年1回の発行と成りました。

【経営改善】

当初より厳しい予算計画である上、原油価格や物価の高騰、光熱費の値上がりなどで、費用の増加が懸念される中、安定経営のための収益確保と採算の取れる事業運営、収支バランスを常に意識した公社経営に取り組みました。

慎重な予算執行と、事業間の協力による応援体制などで、少数人員による事業展開も行うなど、結果として年度末をプラス事業収支で終える事ができ、令和4年度は正味財産増減計算書の当期経常増減額、当期一般正味財産増減額共にプラス残高を残す事ができました。

2. 事業部門

(1) 農地利用集積円滑化事業

地域高齢化や人口減少による、農業後継者や担い手不足により、田畑の耕作や農地の貸し借りに伴う利用権設定、農地売買に伴う農地の流動化についての相談を受け、現地調査による現況確認等も行う中、地域内での農地の保全管理や効率的な農業の実施を引き続き推進し、担い手農家の規模拡大や新規就農者への耕作地の情報提供に努め、窓口である京都市へつなぐよう取り組みました。

◇ 耕作及び農地相談受付件数
件 数

14 件

(2) 田舎の便利屋事業

【地域担い手確保事業】

京北地域の方々からの、農作業を中心とする作業依頼や、地域の事業所からの作業依頼、あるいは官公庁等との契約による受託作業など、多岐にわたる作業依頼に対応するため、「田舎の便利屋人材登録者」や、再委託契約による「農家組合」、「地域の任意団体」等の協力を得て事業に取り組みました。

地域の担い手としての新しい登録者も年間に数名確保はしておりますが、登録者も高齢化する中、従来受けていた山林作業などは新しい経験者の登録が無く、作業依頼を受けられない状況も生じています。

令和4年度は、一般作業対応として、草刈り、草引き等を中心とする農作業のほか、契約業務としてのJAの施設業務や公共施設の掃除、水道水質毎日検査、河川環境整備等が主な事業実績と成っており、受託件数は前年を若干上回りましたが、これまで契約により年間を通じて依頼されていた業務が、無くなった事などが大きな要因と成り、受託金額は前年を下回る結果と成りました。

◇ 登録者数 (令和5年3月31日現在)	
149人 ※ 60歳以上 85人、60歳未満 61人、団体等 3団体	
◇ 受託件数 (令和4年4月～令和5年3月末)	
242件 (前年度 238件)	
◇ 作業延べ人数 (令和4年4月～令和5年3月末)	
2,182人 (前年度 2,311人)	
◇ 受託金額 (令和4年4月～令和5年3月末)	
25,799,115円 (前年度 27,179,835円)	

【農作業受託事業】

農業者(農家)の高齢化による農作業依頼に対応するため、農作業受託部会による春作業(畦付け・耕起・代かき・田植え等)並びに、秋作業(稲刈り・籾運搬・肥料散布・耕起等)の受託に取り組みました。

〔農作業受託実績〕

◇ 春作業 (受託件数 138件)		
耕起	12件	255.21 a (再耕起含む)
代かき	13件	248.21 a(ハロー、ロータリー含む)
田植え	16件	303.24 a
畦付け	7件	1,538.0 m
その他	90件	苗運び、肥料散布等

◇ 秋作業（受託件数	83 件）	
隅刈り	7 件	17 枚
刈取り	13 件	258.20 a
粃運搬	19 件	20,638 kg
耕起	9 件	168.58 a(ディスク、ロータリー含む)
その他	35 件	肥料散布、乾燥、粃摺り 他

◇ 収入金額		
春作業	2,206,928 円	(前年度 2,278,655 円)
秋作業	1,852,480 円	(前年度 1,598,916 円)
合計	4,059,408 円	(前年度 3,877,571 円)

(3) 地域活性化事業

【地域特産物の振興と学校給食資材の供給】

地域の特色を活かし、地域内の生産者グループや個人事業者で開発された生産品や加工品を、地域特産物として道の駅ウッディー京北で積極的に取り扱い、地域活性化につながるよう販売いたしました。

当年度は、コロナ禍ではありましたが規制を受ける事も無く、年間を通じてウッディー京北の営業が続けられ、地元野菜の販売高は前年比約 131%、加工食品の販売高も前年比約 140%の実績と成り、野菜と加工食品併せてウッディー京北の年間総売り上げの 48%を占める実績と成りました。

また、学校給食への「地産地消」と「食育」に伴う、資材供給の取り組みについては、例年同様（公財）京都市学校給食協会様のご理解とご協力を受け、京北ブランド米コシヒカリ「京都京北米」や京北特産の「京北まごころ味噌」、京北小中学校への「地元野菜」の供給をすることができました。

「京都京北米」については、当年度も 12 月に市内全域の小中学校の米飯給食用として、約 5,200 kg を使用いただいたことから、年間約 8,270kg を学校給食で供給することができました。

市内各小学校でも使用いただいている、京北特産の「京北まごころ味噌」については、児童数の変動や減塩対策などで使用量が前年度の約 95%と成ったため、それに比例して販売高も前年比約 95%の実績と成りました。

「地元野菜」の供給は、ウッディー京北生鮮食品販売者である生産者の協力を得て取り組み、給食用としての規格に合った野菜生産や生産時期等の課題、見積価格に合わせて提供いただく事が困難な状況もあるなか、前年度並みの納入実績を保つことができました。

なお、農地保全を目的に公社へ管理依頼をされている 2.1ha の農地(井戸、辻、上弓削、熊田)では、令和 4 年度も米を中心に農作物栽培を行い、学校給食への提供やウッディー京北での販売をすることができました。

- ◇ 道の駅ウッディー京北委託販売者会員数（令和 5 年 3 月 31 日現在）
209 名 （前年度会員数 193 名）
※ 内、生鮮食品販売者 109 名 加工食品その他販売者 100 名

- ◇ 道の駅ウッディー京北加工食品販売高（令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月末）
57,686,362 円 （前年度実績 41,329,839 円）

◇ 道の駅ウッディー京北野菜販売高 (令和4年4月～令和5年3月末)
24,923,917円 (前年度実績 19,026,446円)

◇ 学校給食地産品取扱高 (令和4年4月～令和5年3月末)

	7,707,034円	(前年度実績	7,951,143円)
米	3,296,879円	(前年度実績	3,315,078円)
納品総重量	8,267kg	(前年度実績	8,780kg)
味噌	4,187,650円	(前年度実績	4,425,550円)
納品総重量	6,865kg	(前年度実績	7,255kg)
野菜	222,505円	(前年度実績	210,515円)
納品総重量	539kg	(前年度実績	536kg)

【ふるさと振興等関連事業】

地域活性化と地域課題対策のため、空き家活用による京北地域への定住促進をはかるための、相談者への対応に取り組むとともに、農地活用と農園利用者との交流をはかるため、開設16年目となる「市民農園」の運営に取り組みました。

① 空き家情報の提供による定住促進

令和3年2月に、右京区役所京北出張所、自治振興会等、9つの組織・団体により立ち上げられた「京北移住・定住促進連絡会」の構成団体として、地域が一丸となって取り組めるよう情報の共有化をはかり、相談者に必要な空き家情報と住居を提案出来るよう取り組む中で、当年度は公社として3件の定住実績を上げる事ができました。

◇ 令和4年度定住促進事業実績

相談実績	9件
定住実績	3件
空き家物件情報提供	3件

② 市民農園「京北ふるさと農園さんりょう」の利用者拡大と運営

農地活用による、地域活性化の一環として都市農村交流をはかるため、野菜作りを通じて地以外から京北地域へ来ていただくため開設し、16年目と成った市民農園は、年度当初は継続利用者の契約解除や、複数区画を契約される方が減少し、利用件数及び利用区画が減少いたしました。

しかしながら、昨年度に引き続き年度途中に見学に来られ契約いただけるご家族が増加する傾向にあり、最終的に令和4年度は、利用件数、利用区画ともにほぼ昨年同等の実績と成りました。

なお、恒例となっておりました飲食を伴う秋の収穫祭は、コロナ禍により今年度も中止といたしましたが、3月末には利用者と共に美化作業を実施いたしました。

- ◇ 令和4年度「市民農園」利用実績
 - 募集区画数 …………… 57区画
 - 利用区画数及び利用件数 …… 33区画、19件
 - ※ 令和3年度 34区画、20件
 - 年間利用料 …………… 一区画(約40㎡)当り15,000円

- ◇ 市民農園でのイベント
 - 令和4年度収穫祭 …………… コロナ禍により中止

- ◇ 市民農園美化作業
 - 実施日 …………… 令和4年3月25日(土)
 - ※ 利用者10名参加

【都市農村交流事業】

コロナ禍であるため、イベント自粛や中止により、精力的に事業に取り組む事はできませんでしたが、道の駅ウッディー京北等でのイベントを実施するとともに、市内でのイベントにも参加し、京北地域のPR活動と都市農山村交流に努めて参りました。

〔令和4年4月～令和5年3月末 主催イベント〕

- ◇ 京北地域内(1回)
 - ・ 11月20日(日) 道の駅ウッディー京北感謝祭
 - 内容：京北鍋の提供

- ◇ 道の駅ウッディー京北
 - ・ 定期的な休日販売イベント(42回)
 - 内容：委託販売者による店頭販売

〔令和4年4月～令和5年3月末 参加イベント〕

- ◇ 京北地域内(1回)
 - ・ 11月3日(木) まるごと京北総合市場
 - 内容：「京都京北米」のPRとおにぎり試食
 - ・ 12月14日(水) 京北めぐる市
 - 内容：ウッディー京北物品販売

- ◇ 京北地域外(1回)
 - ・ 5月29日(日) 龍安寺参道イベント
 - 内容：ウッディー京北物品販売
 - ・ 10月29日(土) 西京極スポーツフェスタ
 - 内容：ウッディー京北物品販売
 - ・ 11月13日(日) 龍安寺参道イベント
 - 内容：ウッディー京北物品販売
 - ・ 11月21日(月) 護王神社子宝芋収穫感謝祭(護王神社境内)
 - 内容：京北子宝いもの店頭販売
 - ・ 右京区役所 つながるマルシェ(22回)
 - 内容：ウッディー京北物品販売

(4) 地域交通事業

【京北ふるさとバス】

地域唯一の公的交通手段として、「公共交通空白地有償運送事業」の登録を受け、地域住民の安全・安心な“足”となるよう、京都市との連携のもとふるさとバスの運行に取り組んで参りました。

毎日の車内消毒や換気を徹底しお客様に安心して利用して頂けるようコロナ対策にも取り組みました。

公安委員会が実施する法定講習会等は新型コロナウイルスの影響により一部参加できませんでしたが、ミーティングを定期的に行い安全運行に取り組みました。地域バス案内所に於いては京北地域をはじめ、南丹市営バスや西日本ジェイアールバスの交通案内や観光に関する問い合わせ対応、定期券の発券、共通回数券の販売など、お客様の利便性をはかる取り組みも継続して行っていました。

ふるさとバスの状況としては、中学生の通学に伴う乗車が、運営に大きく影響する事と成っており、少子高齢化の地域の実態から年々厳しい運営状況と成っています。

そのため、令和4年度も将来に亘って持続可能で地域住民に必要な、利便性のある効率的なバスの運行を行うために、平成26年度から継続している利用促進に取り組んで参りました。

なかでも「美山・京北バス旅ルート」については、西日本ジェイアールバス(株)・南丹市とともに運行して参りました。令和2年8月からは京都府の企画する「もうひとつの京都・森の京都版」とのコラボにより「バスたびきっぷ」の年間販売数は4,639枚と成りました。

◇ 令和4年度運行実績(令和4年4月～令和5年3月)

乗車人員	97,612人	(前年度実績)	103,678人
運行収入	22,698,970円	(前年度実績)	21,069,130円

【スクールバス】

京北地域の児童生徒の通学及び教育活動のため、京都市教育委員会から全面委託を受け、18,565,000円の委託料により、スクールバス運行を行って参りました。

全線が混乗運行と成った事から児童・生徒と共に一般のお客様にもご利用いただきました。

(5) 公共施設管理事業

【地域特産物需要拡大センター「道の駅ウッディー京北」管理運営事業】

令和4年度はコロナ禍の規制を受けることなく1年間営業する事ができました。11月に生産者部会と合同で実施した感謝祭では、大鍋で「京北なべ」を提供するなど、市民還元につながるイベントに取り組み、約1,800人の方に来館いただきました。

また、京北小中学校の授業に講師を派遣して、施設や京北のPRをするのと同時に、学校での生徒による販売体験を受け入れ、生産者と地域の学生をつなぐ地域連携

に取り組みました。

令和4年度の来館者数は、おおよそコロナ禍前まで戻る386,737人と、多くの方に来館いただきました。コロナ関連の各クーポンは年間で約218万円の利用があり売上の後押しにも成りました。令和4年度の総売上げは171,199,855円と、道の駅開駅以来、最高の売上げと成りました。

◇ 来館者数	386,737 人	(前年度 287,125 人)
◇ レジ通過者	138,683 人	(前年度 97,717 人)
◇ 売上合計金額	171,199,855 円	(前年度 124,307,171 円)
◇ 分類別売上明細		
・ 加工食品	57,686,362 円	(前年度 41,329,839 円)
・ 農産品	49,998,588 円	(前年度 37,888,293 円)
・ 木工品等	16,410,802 円	(前年度 12,986,241 円)
・ 酒類	4,951,127 円	(前年度 3,795,355 円)
・ 喫茶	34,967,616 円	(前年度 24,045,783 円)
・ ソフト	7,185,360 円	(前年度 4,261,660 円)
合計	171,199,855 円	(前年度 124,307,171 円)

【宇津峡公園管理運営事業】

京都市指定管理者制度の最終年度となる当年度は、都市住民との交流施設、自然環境を生かしたアウトドア施設として、多くの方にご利用をいただき過去最高の利用者数と成りました。

収入については、コロナの感染が過去最高を更新した夏場に、コテージ棟の急なキャンセルにより稼働率が計画より下回り、顧客単価が下がった事により、過去最高を更新できず計画水準に留まりました。

◇ 宇津峡公園有料入園者数 (令和4年4月～令和5年3月末)	14,311 名	(前年度実績 9,786 名)	(大人 11,436 名、小学生 2,875 名 ※ その他 未就学無料入園者 1,801 名)
◇ 宇津峡公園収入金額 (令和4年4月～令和5年3月末)	25,760,718 円	(前年度実績 24,600,870 円)	(利用料収入 22,240,610 円、事業等収入 3,243,760 円、その他 276,348 円)
◇ コテージ棟利用数	575 棟	(前年度実績 414 棟)	

◇ オートサイト利用数
1,034 区画 (前年度実績 819 区画)

◇ イベント等参加者数

- ・ 鮎つかみ体験 498 匹 (前年度実績 668 匹)
- ・ ラフティング体験 実施回数 17 回 体験者数 142 名
(前年度 24 回/146 名)
- ・ うなぎつかみ体験 中止 (前年度 中止)
- ・ ぼた餅づくり体験 中止 (前年度 中止)
- ・ ハロウィンナイト 子供 76 名 大人 109 名
(前年度 子供 38 名 大人 92 名)

(6) 貸館事業

【葬祭関連事業】

公益的な事業を補完し、ふるさと公社の安定経営に向けた財務基盤を確立するための収益事業として、公社施設の葬祭での利用を主とする貸館事業に取り組んで参りました。

葬儀に対する意識の移り変わりがコロナ禍以降より加速し、家族葬での質朴な葬儀を行われる傾向と成っています。

葬儀社の会館で行われる家族葬が増加し、前年対比 5 件減の 12 件の年間利用と成りました。

◇ 会場利用実績

令和 4 年度利用件数	12 件
オープン(平成 16 年)以降の累計	585 件

【田舎くらし体験】

上弓削町越木の土地・建物を『田舎くらし体験施設』として有効活用し、収益事業として、公社の安定した収益の確保に努めて参りました。

現在の利用者とは、10 年間の長期賃貸借契約により令和 9 年 7 月末日までご利用いただく事と成っています。

(7) 農産物処理加工施設整備事業 (大豆の里京北「第 6 次産業」化拠点施設整備事業)

施設名称を『山国「水・土・里の館」』として、山国さきがけセンターにより施設の運営・管理を行っており、6 次産業としての「京北まごころみそ」の生産を中心に、納豆餅やその他農作物の生産加工及びコロナ禍での販売拡大に取り組みました。

事業主体の公社としては、施設に関連する減価償却等の事務処理について、役割を担っておりますが、事業開始から 10 年が経過する中、公社から山国さきがけセンターへの施設譲渡に向け、京都市所管課とも調整しながら計画的な事業運営に取り組みました。

《参考》	令和4年度	京北まごころ味噌加工実績		
	仕込実績	9,591 kg	※ 前年度	9,960 kg
	売上実績	7,551,925 円	※ 前年度	7,726,307 円

(8) 合併記念の森創設事業

京都市からの委託事業として、令和4年度も6月から担当者1名を雇用し、管理棟及び作業棟の維持管理や周辺の草刈り作業等に取り組みました。

◇ 事業委託料 397,100 円

(9) 山村地域担い手育成定着支援事業

平成27年度補助事業により導入した農業機械を、地域の担い手農家や新規就農者へ、農業機械の保有に伴う負担を軽減できるよう貸借すると共に、田舎の便利屋事業で作業依頼を受けた農地の保全管理、あるいは公社の借り受けた管理農地での、京北米や野菜の生産に使用するなど、事業目的に沿って有効的に活用いたしました。

※ 本事業による公社所有農業機械

5条植え田植機 1台、管理機 1台、自走式草刈機 1台、畦付機 1台

(10) 農産物生産販売と農業関連施設運営事業

事業実施から2年目と成る本事業では、精米施設「米工房」を活用し、本公社栽培分や担い手協議会から買入れた、京北ブランド米コシヒカリ「京都京北米」の精米のほかに、JA等から依頼を受けた精米を中心とする施設運營業務に取り組むと共に、京北地域の米の生産振興につながるよう販売拡大にも取り組んで参りました。

本公社は、借入農地約2.1haに於いて「京都京北米」と若干の野菜を栽培いたしました。特に米について当年度の収量は昨年よりも、玄米数量で約1,800kg多く、平年よりも若干多い6,960kg(232袋/30kg)の収量と成りました。

また、販売実績については例年通りのウッディー京北や市内取引先店舗での販売、及び学校給食への供給に加え、年度途中の9月よりJAから米の販売に伴う事業を引継いだため、地域内外の販路が拡大し販売実績も大幅に伸びた事から、本事業に於ける事業収支は、昨年(初年)度の120万円余りのマイナス収支から若干のプラス収支に転じる結果と成りました。

なお、保有しているビニールハウスについては、地域の新規就農者からの申し入れにより就農者支援として貸し付け、有効活用しています。

◇ 「米工房」による精米実績

合計 31,403 kg

内訳：京都京北米 17,965 kg、その他 13,438 kg

◇ 精米施設利用手数料 ※ 公社保有米以外
221,554 円

◇ 米・野菜等販売実績

合計 6,542,496 円

内訳：京都京北米 6,482,682 円、野菜 38,765 円

その他 21,049 円